

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 16 No.2 2014年1月31日号

問い合わせ：cnar@cnar.jp 読者登録：<http://cnar.jp>

Copyright 2014 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

■ファーウェイ・ジャパン、ビデオ会議システム「TE シリーズ」のラインナップを強化、エントリーモデルからインテグレーション向けまで幅広いニーズに対応

華為技術日本株式会社（東京都千代田区、以下、ファーウェイ・ジャパン）は、フル HD (1080p/60fps) に対応したビデオ会議システム「TE シリーズ」のラインナップを強化、日本での販売を開始した。（取材：1月20日）

ファーウェイ・ジャパンは、昨年の秋にエントリーモデルビデオ会議システム「HUAWEI TE30」を日本国内向けに発売開始するとともに販売代理店の開拓に本腰を入れて乗り出した。TE30 は、導入コストやポータブル性、Wi-Fi 対応（TE30 のみ）などから、中小企業を中心とした、一般的に言われているビデオ会議ユーザのボリュームゾーンである数十拠点の導入が多いという。また一方で、販売代理店の開拓も着実に進んでおり、現在、オーライソフトウェア株式会社（東京都千代田区）などを通して販売されている。

今回発売されたのは、小中規模会議室向けのミドルモデル「HUAWEI TE40」、大会議室向けのミドルハイモデル「HUAWEI TE50」、そして講堂・ホール向けのフラッグシップモデル「HUAWEI TE60」。HUAWEI TE30 は、ポータブル性を重視しているため、カメラ・マイク・コーデックが一体化された製品だが、HUAWEI TE40 以上は、カメラ・マイク・コーデックをそれぞれ分離したモデルとなっている。TE60 はインテグレーション向きだ。

今回の TE シリーズのラインナップ強化の主なポイントは、主に以下の2点にある。

まず、小規模会議室から中規模、そして大規模会議室、さらには講堂・ホールなどでの利用を想定した製品を、ポータブル、据え置き、インテグレーションと幅広く充実させた

ころがひとつ。

またもうひとつは、コーデック部を単独のボックス提供にすることで、出入力インターフェイスを豊富にした点。3G-SDI や HDMI などのほか、アナログ端子（キヤノン端子、DVI、VGA、RCA など）にも対応する。



TE40/50/60(ファーウェイ・ジャパン 資料)



TE60 インターフェイス(ファーウェイ・ジャパン 資料)

たとえば、TE60 の映像インターフェイスでは、HD7 入力：5 出力。SD では1入力：1出力。一方、音声インターフェイスは 7 入力：8 出力まで可能。なお、オプションの周辺ケーブルもさまざまな用途に応じられるように提供している。変換コンバータなどほとんど必要がないくらい充実しているという。

「他社の製品を見ると、昨今のビデオ会議システムのコーデックは小型軽量化が進んでいるが、その分出入力の端子が十分ではない。それに対して、当社のビデオ会議システムはフル HD などコーデックの基本的な性能と機能は押さえつつ、アナログ端子も含めた豊富なインターフェイスを提供しているため、幅広い用途でご活用いただける。」（ファーウェイ・ジャパン 法人ビジネス事業本部 ユニファイド・ユニフ

アイトコミュニケーション事業推進部 部長 鈴木 敦久 氏)

TEシリーズの基本性能や機能を見る。通信プロトコルは、H.323 や SIP に対応し、他社のビデオ会議システムとも問題なく相互接続が可能だ(国際団体 IMTC などで検証済み)。解像度は 1080p/60fps まで対応。また、映像符号化は昨年ビデオ会議システムで標準となりつつある H.264 ハイプロファイルや H.264 SVC に、一方、音声符号化については、AAC-LD にも対応している。

その他、マルチビュー(3 台のカメラ入力可能)、ボイスダイヤル、「Easy Air Content Sharing」、ローカルデータシェアリング(ローカル会議とビデオ会議がひとつの VGA インターフェイスを共有する機能)などの機能も搭載している。

この中で、Easy Air Content Sharing は、デュアルストリーム(H.239)のことで映像とコンテンツとも最大 1080p60fps に対応している。内視鏡などの医療現場でも威力を発揮するという。

VME については、H.264 ハイプロファイル組み合わせることとで使用帯域を従来の帯域の 50%削減が可能となっている。たとえば、720p でのビデオ会議セッションは 384kbps、また 1080p でのビデオ会議セッションは 512kbps で行えるようになっている。

SEC については、H.264SVC を組み合わせることで、ネットワーク上で 20%の packet loss が発生しても、安定した映像と音声でビデオ会議が継続できるとしている。一般的にはこの機能がないと数パーセントの packet loss で映像や音声が乱れたり、セッションが切れたりするケースが多い。

なお、TE シリーズ端末(30/40/50/60)の性能・機能については機種によって搭載ありなし、もしくは、追加ライセンスが必要な場合がある。

一方、端末としての十分な性能と機能のほか、同社のビデオ会議システムは、多地点接続装置(エントリーからハイエンドまでの 3 モデル)やゲートキーパー、運用管理システム

などインフラソリューションも合わせて取り揃えている。また会議予約ではマイクロソフトの Outlook 連携にも対応している。さらには、マイクロソフト社の「Lync」、IBM 社の「Sametime」などのユニファイドコミュニケーションシステムとの連携にも対応する。

ファーウェイ・ジャパンによると、同社のビデオ会議ビジネスは 1993 年に開始以来 20 年にも及ぶ。60

か国以上で販売実績があり、2011 年から 2013 年の間に 14 万端末(3,500 以上のテレプレゼンスを含む)を 2012 年第四半期までに出荷した。加えて、TE30 については、2013 年 4 月末にグローバルで発売開始(日本は同年秋)してから 5 か月間で 1,500 台以上を出荷している。テレプレゼンスシステムの出荷台数においては業界第 2 位という。

*関連: TE30 発売 定期レポート 2013 年 9 月 15 日号

	TE30	TE40	TE50	TE60
Product appearance	 All-in-one	 Detached	 Detached	 Detached
ポジショニング	エントリー	ミドル	ミドル-ハイ	フラッグシップ
アプリケーションシナリオ	小会議室	小-中会議室	中-大会議室	講堂、ホール等
音声	AAC-LD	AAC-LD	AAC-LD	AAC-LD
ビデオ	1080P30(オプション), 720P30 H.264HP/SVC	1080P60(オプション), 1080P30(オプション), 720P30 H.264HP/SVC	1080P60(オプション), 1080P30 H.264HP/SVC	1080P60(オプション), 1080P30 H.264HP/SVC
デュアルストリーム	1080P30+1080P5(オプション), デュアル 720P30	デュアル1080P60(オプション), 1080P30(オプション), デュアル720P30	デュアル1080P60(オプション), デュアル1080P30	デュアル1080P60(オプション), デュアル1080P30
ビデオインターフェイス	HD: 2 入力(内 1 入力は内蔵カメラで利用), 2 出力	HD: 3 入力, 3 出力	HD: 4 入力, 4 出力 SD: 1 入力, 1 出力	HD: 7 入力, 5 出力 SD: 1 入力, 1 出力
オーディオインターフェイス	2 入力, 2 出力	5 入力, 6 出力	6 入力, 6 出力	7 入力, 8 出力
最大速度	4Mbps	8Mbps	8Mbps	8 Mbps
特別機能	Wi-Fi 接続, USB 自動設定, ボイスダイヤリング	USB 自動設定, ボイスダイヤリング, マルチビュー(デュアルビュー), VGA バイパス	USB 自動設定, ボイスダイヤリング, マルチビュー(デュアルビュー), VGA バイパス	USB 自動設定, ボイスダイヤリング, マルチビュー(トリプルビュー), VGA バイパス

TE シリーズ仕様一覧 (ファーウェイ・ジャパン 資料)

とりわけ、映像品質については、ファーウェイとして力を入れている。暗い部屋でも色の再現性を高める「3D 自動カラーマッチング」のほか、顔など人物の敏感な部分と他の動きのある部分を最適化する「VME (Video Motion Enhancement technology)」（特許取得済技術）やエラー補正アルゴリズム「SEC (Super Error Concealment Technology)」（特許取得済技術）などを搭載している。

■シスコシステムズ、モバイルなどワークスペースに合わせて設計された企業向けコラボレーションソリューション発表

シスコシステムズ合同会社(東京都港区)は、ワークスペースに合わせて設計された新しい企業向けコラボレーションソリューションを発表した。(1月21日)

同社によると、今回発表されたソリューションの背景には、企業におけるモバイルワーカーをサポートするために、モバイル最優先で設計されたコラボレーションテクノロジーを提供する必要があるという考え方がある。

発表された製品は以下の通り。セキュリティを維持しながら、使いやすく、直感性に優れ、あらゆる規模の企業/組織に合わせて簡単に拡張可能という。

(1)「Cisco Expressway」:「Cisco Collaboration Edge アーキテクチャ」の主要コンポーネントで、デバイスレベルでの登録、アカウントやパスワードを必要とせずにセキュリティを維持できるゲートウェイ。居場所に関係なくあらゆるコラボレーションツールにアクセスできる。また、TLS(Transport Layer Security)を使って Jabber および TelePresence エンドポイントからの音声・インスタントメッセージング・ビデオ通話を保護する。

(2)「Jabber Guest」:Expressway のセキュリティ機能を使って社外の関係者にゲストアクセスを提供するソリューション。Web サイト、電子メール、モバイルアプリケーションからリアルタイムで音声・ビデオ・データ共有機能を追加できる。なお、公開が予定されている WebRTC 標準をサポートするように設計されている。また、「Cisco Contact Center Enterprise」と一体化させることも可能。

(3) 第二世代テレプレゼンスシステム「Cisco TelePresence MX300」:約 15 分で簡単に組み立て、自動的にプロビジョニングできる。H.264 SVC をサポートし、他社システムとの相互接続に対応。デュアルディスプレイ機能搭載。マルチポイント制御機能(MCU)なしで、最大で 4 台の端末を同時に接続可能。5 月に発売予定。

(4)「Cisco IP Phone 7800」:中規模の企業・組織に最適。

人間工学に基づくデザインを採用し、直感的な操作と広帯域音声を提供する。PoEクラス1 デバイスであり、消費電力を効果的に節約できる。既に販売開始済。

(5)「Intelligent Proximity」:個人のモバイルデバイスをオフィス内のオンプレミス製品にリンクさせることができる技術。たとえば、デスクの電話と Apple/Android 携帯電話を無線で同期させることができる。携帯電話の連絡先や通話履歴の同期、あるいは携帯で始めた通話を DX650(後述)に切り替えたりすることも(逆も可)できる。対応する最初の端末は Android 搭載「Cisco DX650 スマートデスクフォン」。

(6)「Cisco Prime Collaboration」:サーバの導入、デスクフォン、ノートPC 上の Jabber クライアントまでを含めたさまざまなデバイスのプロビジョニングや管理が統一された管理コンソールから行える統合管理ソリューション。また BYOD(Bring your own device)に合わせて、個人デバイスを簡単にシステムに追加するための権限をユーザに与えることができる。

*関連記事:定期レポート:2013年11月15日号(北米10月23日発表)。

■NEC と NEC インフロンティア、次世代オフィスコミュニケーションゲートウェイ「UNIVERGE Aspire UX」の機能強化

日本電気株式会社(東京都港区)ならびに NEC インフロンティア株式会社(東京都千代田区)は、中小規模事業所向け次世代オフィスコミュニケーションゲートウェイ「UNIVERGE Aspire UX(ユニバージュ アスパイア ユーエックス)」の機能を強化し、新製品を2月5日から出荷開始する。(1月22日)

新製品は、これまでコストの問題で UC 活用が浸透していなかった中小規模事業所において、多彩な通信デバイスの活用や音声以外のコミュニケーションツールとの連携を、追加のサーバを必要とすることなく、UC の導入を低コストで容易にするもの。

今回発表された機能強化は以下の通り。

(1)「デスクトップコミュニケーター UC100」をリリース:プレゼン

ス表示・チャット・メール連携・電話連携をサーバレスで実現する。UNIVERGE Aspire UXに標準搭載することでUC環境をワンボックス・低コストで簡単に構築することが可能。



デスクトップコミュニケーター UC100 の画面例(NEC 資料)

(2)「BCA ユニット」(オプション)をリリース:多機能電話とスマートフォンの連携オプション。多機能電話機底面に装着し、スマートフォンを利用登録することで、スマートフォンへの着信を多機能電話機で応答したり、多機能電話機の通話をスマートフォンに切り替えるなどの操作が可能となる。

(3)ビデオ通話機能の拡張:これまで2拠点のみ対応していた SIP 対応ビデオ通話端末によるビデオ通話を、最大 4 拠点まで拡張した。

(4)新 PHS 端末「Carrity-NW」(2013 年 11 月発売)に対応:従来機種より大幅に小型化を行い、防水機能やカラー LCD 化、ショートメッセージなどの機能を強化。UNIVERGE Aspire UX の構内 PHS 内線子機端末を一度に複数台(8 台以下)呼び出す機能と組み合わせることも可能。

その他の主な機能としては、ビデオ通話端末(SIP)が NAT 超え機能に対応、通話録音装置「VR-900 UX」(株式会社タカコム製、2 月末発売予定)と連携するための通話録音専用インターフェイスを追加、着信自動転送や音声ガイダンス、応答フロー作成などの機能を備えた「CSVIEW/VoiceOperator」との連携などに対応した。

NECとNECインフロンティアによると、今回の機能強化に

よる UNIVERGE Aspire UX 想定システム価格 564,000 円に変更はないという。また、現在 UNIVERGE Aspire UX を利用中のユーザに対しては、必要機器の追加やソフトウェアアップデート等にて新機能を提供するとしている。

ビジネス動向-国内

■トロシステムズ、インターコール社とリセラー契約締結

トロシステムズ株式会社(東京都港区)は、インターコール社(InterCall Singapore 社)と1月10日付けでリセラー契約を締結したと発表。(1月10日)

インターコール社は、世界最大の会議およびコラボレーションサービスプロバイダ。ウェストコーポレーションの子会社で、1991年設立。シスコユニファイドコミュニケーション製品のクラウド版 Web 会議システム「WebEx(ウェブエックス)」を含み幅広いラインナップを取り揃えている。また、ビデオ会議システムをマルチベンダーで多地点接続するクラウド型 MCU「Blue Jeans(ブルージーンズ)」を日本で唯一取り扱っている。

トロシステムズは、シスコユニファイドコミュニケーションの拡販に注力しており、今回のリセラー契約で、顧客のグローバルなビジネス展開に対応すべくインターコールのサービスをラインナップに加えた。

エンタープライズ版を中心に、WebEx や Blue Jeans のラインナップをトロシステムズのパブリッククラウドサービス「Qumo(クーモ)」のサービスとして展開していく。

トロシステムズは、シスコプレミア認定パートナー。中堅・中小規模の企業ネットワークシステムの導入を専門にサービスを提供している。ネットワークで実現する「ワークスタイル改革」をテーマに、モバイルや在宅勤務、ビデオ会議のネットワーク環境構築を得意としている。

トロシステムズの窓口は、アドミニストレーショングループ。

■NTT コミュニケーションズ、Arkadin 社の株式取得手続きの完了

NTT コミュニケーションズ株式会社(東京都千代田区)は、1月21日、Arkadin International 社(アルカディン、本社:フランス・パリ)の株式取得手続きを完了したと発表。(1月22日)

Arkadin International 社は、日本を含む世界32か国において約3万7,000社に音声・Web・テレビ会議などのコラボレーションサービスを提供し、会議系サービスの専業事業者として世界で3位のシェアを持つ。

NTT コミュニケーションズでは、現在、クラウド型ユニファイドコミュニケーションサービス「Arcstar UCaaS」や会議系サービス「Arcstar Conferencing(電話会議・Web 会議・ビデオ会議)」などのコミュニケーションサービスを提供している。

今回の株式取得によって、NTT コミュニケーションズは、アルカディン社のサービス基盤を自社のサービスに取り入れることで、Arcstar サービスの機能を拡充していく考え。

具体的には、Arcstar UCaaS や Web 電話帳から Arcstar Conferencing をシームレスに起動できる機能など、新たなサービスを順次提供開始する予定。また、アルカディン社のグローバルな顧客基盤と対応力を活かして、グローバルにビジネスを展開する企業に対して、会議系サービスを中心とした新しいトータルコミュニケーションサービスを提案していく。

*関連:定期レポート:2013年8月15日号

製品・サービス動向-海外

■ブイキューブシンガポール、TKP シンガポールと提携し、シンガポールにおける Web セミナー配信サービス販売を強化

V-cube Singapore 社(シンガポール)とTKP SINGAPORE IN 社(シンガポール)は提携し、シンガポールにある貸し会議施設「TKP Conference Center Raffles Place」の会議室と回線を使用した、Webセミナー「V-CUBE セミナー」サービスの提供を開始する。(1月17日)

V-cube Singapore 社(ブイキューブシンガポール)は、株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)のシンガポールにおける V-CUBE サービス販売の拠点。2013年8月に設立され、シンガポール国内における V-CUBE サービスの販売を進めている。また、TKP SINGAPORE IN 社は、株式会社ティーケーピー(東京都新宿区)のシンガポール法人。国内外で貸し会議室を展開する。シンガポールでは TKP Conference Center Raffles Place を運営している。

V-CUBE セミナーは、講演会やセミナー・研修など、日本国内外で年間およそ2万回の配信実績がある。今回の提携により、V-CUBE セミナーをシンガポールにおいて提供することで、シンガポール国内のみならず、東南アジアや全世界の社員や顧客へリアルタイムに情報共有することが可能になる。また、Web セミナー開催前の事前準備から当日の現場運営、配信サポート、配信後のオンデマンドムービーの活用まで、専任のスタッフによるサポートサービスも提供する。

これまで多くの企業がアジア展開の中心にすえているシンガポールにおいて、多くの講演会や研修などが行われてきたが、アジア各国からシンガポールに集まる距離や時間が課題になっていたという。

ブイキューブシンガポールは、TKP Conference Center Raffles Place を利用している非日系企業に向けても V-CUBE セミナーを積極的に提供し、シンガポールを中心とした事業展開を今後も進めていくという。

導入・利用動向-国内

■KDDIと日本マイクロソフト、東芝グループのコミュニケーション基盤を「Microsoft Lync」でサポート

KDDI 株式会社(東京都千代田区)と日本マイクロソフト株式会社(東京都港区)は、株式会社東芝(東京都港区)および東芝グループが、ユニファイドコミュニケーション「Microsoft Lync」を採用したと発表。(1月27日)

Microsoft Lync は、電話や電子メール、在宅表示、オンライン会議を統一したプラットフォーム。グローバル規模で統

一して利用する新しいコミュニケーション基盤として、東芝グループが導入した。

東芝としては、組織・部門間コミュニケーションの活性化によるイノベーションの推進、多くの事業所間の移動による時間・コストの軽減、有事の際の事業継続計画のため、などの目的がある。

今回導入された Lync は、KDDI のクラウド基盤サービス「KDDI クラウドプラットフォームサービス」上に構築され、運用とセットにしたユニファイド・コミュニケーションサービスとして提供されるが、すでに東芝のスマートコミュニティセンター（神奈川県川崎市）にて運用を開始しており、今後国内拠点への納入を進めていく。

KDDI クラウドプラットフォームサービス上に構築することで、ユーザ数の増加や機能拡張に合わせた無駄のないサーバ容量設定が可能になるほか、KDDI 電話サービスや各ネットワークサービスとシームレスな接続が可能になる。

KDDI と日本マイクロソフトは、今後も共同でモバイルツールによる利用を含めた最新のコミュニケーション基盤を提案していく考えだ。

株式会社東芝

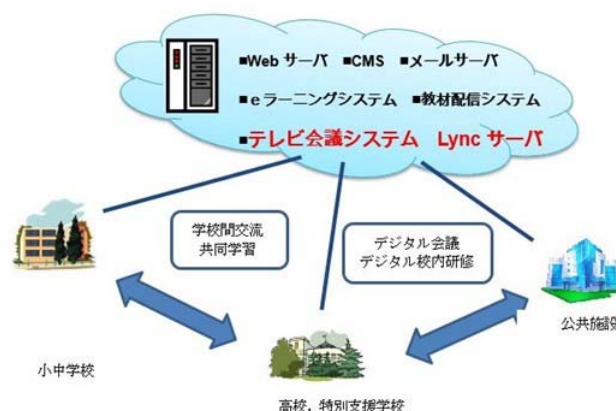
<http://www.toshiba.co.jp/>

■熊本県教育委員会、熊本県内の全小中高等学校にて「Lync Server」を採用し遠隔授業や職員会議等に活用

日本マイクロソフト株式会社（東京都港区）は、熊本県教育委員会が、マイクロソフトの電子会議テクノロジー「Microsoft Lync」を採用したと発表。（1月17日）

熊本県教育委員会は、学習の進化を図るため、これまで学校同士や地域を巻き込んだ交流学習を進めてきたが、これを県域に広げるため、Microsoft Lync Server 2013 をプライベートネットワーク上に置き、県内全公立小中高等学校をつなぐ。

また、これまで車で移動して実施してきた職員会議や教員研修等も Lync を使って効率化し、移動時間の短縮や経費の削減を図る。



熊本県教育委員会で導入した Lync(日本マイクロソフト 資料)

2013年4月から試験運用を行った10校ではすでに有効な事例が出てきているという。ひとつの例では、1月16日に熊本県高森町で開催された「高森小中学校研究発表会」では、小学6年生の社会科授業にて Lync を活用した授業を行った。児童らが地域で災害対策にたずさわる方々に対して Lync を通じて交流した。

熊本県教育委員会

<http://kyouiku.higo.ed.jp/>

■住友生命、全国約400の教育拠点にパナソニックのクラウド型 Web 会議システムを導入

パナソニック ソリューションテクノロジー株式会社は、住友生命保険相互会社（大阪府中央区）に、クラウド型 Web 会議システム「リアルタイムコラボレーション」を納入したと発表。（PRTIMES:1月22日）

リアルタイムコラボレーションは、オフィスや出張先、自宅などのパソコンやタブレットからインターネットに接続するだけで、手軽に会議が行える Web 会議システム。大規模運用にも対応可能な機能を備えている。

住友生命は、リアルタイムコラボレーションを全国約400の教育拠点に展開して営業職員の研修に活用する。これにより、講師の研修が複数の拠点において受講が可能になるとともに、研修の効率化と教育の高いレベルでの均質化、コスト削減を実現する。

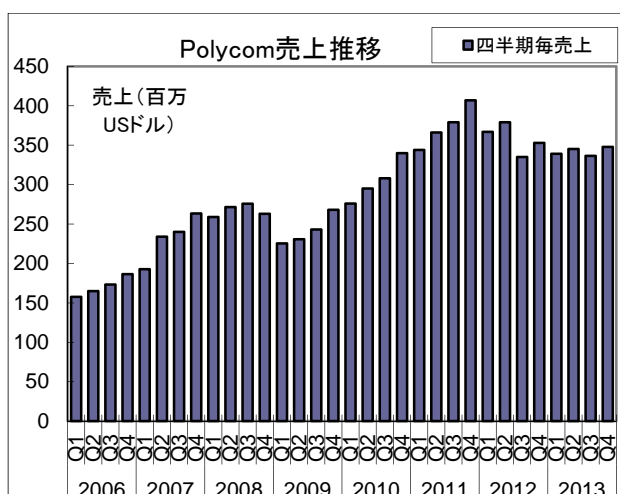
事例詳細については、パナソニック ソリューションテクノロジーの Web サイトにて公開している。

住友生命保険相互会社

<http://www.sumitomolife.co.jp/>

決算発表-海外

■ポリコム(NASDAQ)



米ポリコム社は、2013年度第4四半期(2013年12月31日締め)の決算発表を行った。(米:1月22日、日本:1月28日)

第4四半期の売上高は3億4,800万ドルで、非GAAP純利益は2,500万ドル、希薄化後1株あたりの利益は16セントとなった。またGAAP(一般会計原則)純損失は200万ドル、希薄化後1株あたりの利益は1セントであった。

一方、地域別では、南北アメリカが1億7,060万ドル(49%)、欧州・中東・アフリカ(EMEA)が8,920万ドル(26%)、アジア太平洋が8,810万ドル(25%)。

製品ごとの売上では、UCグループシステムが2億1,810万ドル(63%)、UCパーソナルデバイスが6,210万ドル(18%)、UCプラットフォーム6,770万ドル(19%)。

なお、決算発表詳細については、同社米 Web サイトの Events & Webcasts に、1月22日の発表会の模様が録音されている。

セミナー・展示会情報

<国内>

■Vidyo 社製マルチスクリーンテレプレゼンスシステム「VidyoPanorama 600」発表会のおしらせ

日時:2月5日(水)14:30~17:00(受付14:00~)

会場:東京ドームホテル 宴会場シンシア地下1階

開催:Vidyo Japan 株式会社/プリンストンテクノロジー株式会社

開催協力:映像センター株式会社

詳細・申込:

<http://www.princeton.co.jp/news/2014/01/201401231100.html>

■【人事部必見!】助成金を活用したプログラミング研修の方法と遠隔研修の最新事情のご紹介

日時:2月12日(水)13:30~15:00

会場:ブイキューブ本社(東京都目黒区)

主催:株式会社ブイキューブ

詳細・申込:<https://vcube.smtkg.jp/public/seminar/view/119>

■後悔しない Web 会議を選ぶために事前チェックすべき「6つのポイント」セミナー

日時:2月17日(月)15:30~17:00

会場:キャノンソフトウェア本社(東京都品川区)

主催:キャノンソフトウェア株式会社

詳細・申込:<https://reg.canon-soft.co.jp/public/seminar/view/127>

■Polycom Day『生産力をあげるビデオ会議:製造業向けソリューションのご紹介』製造業界での導入事例や活用シーンを含め、デモンストレーション

日時:2月26日(水)15:30~16:30(受付:15:30)

会場:ポリコムジャパン セミナールーム

主催:ポリコムジャパン株式会社

詳細・申込:<http://www.polycom.co.jp/company/events.html>

国内その他:<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他:<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

CNA Report Japan アーカイブ電子ブック版

>2003年-2013年 http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

>2014年 http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/ebook/

電子ブック制作:カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

編集後記

今回もお読みいただきましてありがとうございました。また次号もよろしくお願いたします。

CNAレポート・ジャパン 橋本啓介